

三国志研究会（全国版） 210206

『晋書』 卷六 元帝紀を読む

佐藤大朗（ひろお）

【原文】

晋書勅注卷六

帝紀第六

元帝

元皇帝諱睿、字景文、宣帝曾孫、琅邪恭王
覲之子也^[-]。咸寧二年、生於洛陽、有神光
之異^[二]、一室尽明、所藉藁如始刈。及長、
白毫生於日角之左^[三]、隆準龍顏、目有精曜、
顧眄煒如也^[四]。年十五、嗣位琅邪王。幼有
令¹聞。

〔校勘〕

1. 百衲本・中華書局本は、「聞」につくる。

〔勅注〕

〔一〕 文選勸進表注王隱晋書曰、元帝、琅邪
共王之長子睿。魏書作叡。世説言語篇注
朱鳳晋書曰、諡法始建国都曰元。

〔二〕 類聚十晋中興書曰、誕有神光。

〔三〕 御覽三百六十四王隱晋書曰、元帝白毫
生額上有光明。

〔四〕 世説言語篇注朱鳳晋書曰、少而明惠。

《訓読》

元皇帝 諱^{げんこうてい いみ}は睿^な、字^{えい}は景文^{あぎな けいぶん}、宣帝^{せんてい}の曾孫^{そうそん}
にして、琅邪^{ろうや}恭王^{きょうおう}の覲^{きん}の子^{かんねい}なり^[-]。咸寧二

〈二七六〉年、洛陽に生まれ、神光しんこうの異有り
〔二〕、一室ことごと 尽しく明るく、藉わらく所の藁し 始め
て刈るが如し。長ちやうずるに及び、白豪はくごう 日角につかく
〈額〉の左に生え〔三〕、隆りゆうじゆん 準じゆんなる〈鼻梁りゆうがんの
高い〉龍顔りゆうがんにして、目に精曜せいよう有り、顧眄こべんす
る〈見わたす〉に煒如いじよたる〈眼光いこうが鋭い〉な
り〔四〕。年十五にして、位くら 琅邪王ろうやおうを嗣ぐ。
幼れいぶんくして令聞れいぶん 〈よき誉れ〉有り。

〔斟注〕

- 〔一〕文選勸進表注もんぜんかんじんひやう 〈引〉王隱おういん『晋書』に
曰く、「元帝げんていは、琅邪ろうや 共王きやうおうの長子ちやうしたる睿
なり」と。〈魏収ぎしゆう〉『魏書』は「叡えいにつく
る。『世説せせつ 〈新語しんご』』言語篇注げんごへん 〈引〉朱鳳しゅほう
『晋書』に曰く、『諡法しほう』に「始めて国都こくと
を建つるは元げんと曰ふ」とと。
〔二〕『藝文類聚げいもん るいじゆう』〈卷〉十〈所引しんちゆうこうしよ』『晋中興書』
に曰く、「誕おほいに神光しんこう有り」と。
〔三〕『太平御覽たいへい ぎやらん』〈卷〉三百六十四〈所
引おうしん しんじよ〉王隱おういん『晋書』に曰く、「元帝げんてい 白毫はくごう 〈白
い細毛こうみやう〉額の上に生えて光明こうみやう有り」と。
〔四〕『世説せせつ 〈新語しんご』』言語篇注げんごへん 〈引〉朱鳳しゅほう『晋書』
に曰く、「少わかくして明恵めいけいなり」と。

【原文】

及恵皇之際、王室多故、帝每恭儉退讓、以
免於禍。沈敏有度量、不顯灼然之迹、故時人
未之識焉。惟侍中嵇紹異之、謂人曰、琅邪王
毛骨非常、殆非人臣之相也。

《訓読》

恵皇けいこうの際さい〈二九〇～三〇七年〉に及び、王室おうしつ
多故たご〈多事多難〉なり、帝 毎に恭儉こうけん〈つづ
まやか〉にして退讓たいじやう〈ひとに謙讓〉し、以て禍か
を免まぬかる。沈敏ちんびんにして〈落ち着いて聡く〉度量どりよう
有あり、灼然しゃくぜんの〈著しく目立つ〉迹せきを顕あらはさず、故ゆえ
に時人じじん 未だ之いま 識これらざるなり。惟ただ侍中じちゆうの
嵇紹けいしょう 之いを異いとし、人いに謂いはひて曰く、「琅邪
王もうこつの毛骨もうこつ〈容貌〉 常じょうに非ほとんず、殆じんしんど人臣じんしんの相そう
に非ほとんざるなり」と。